

新聞学科目領域 教育課程の編成及び実施に関する方針

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 (コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	〔DP-1〕 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	〔CP-1〕 ・新聞学科専門科目の系統的な学修を軸として、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」をめぐる学問（以下、「新聞学」という）にかかわる専門的な知識を学び、それらの学知を説明することができる力を養成する。 ・規範と高い倫理観に基づいて情報を取り扱うことができる人材を育成する。
日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	〔DP-2〕 日本及び世界の法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	〔CP-2〕 ・新聞学科専門科目の系統的な学修を軸として、グローバル化する情報環境の実態を理解し、分析することができる力を養成する。 ・日本および世界における新聞学にかかわる諸問題について、専門的知見を踏まえて説明することができる人材を育成する。
論理的・批判的思考力	〔DP-3〕 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	〔CP-3〕 ・新聞学の知識および理論を系統的に学修することを通じて、ジャーナリズム・メディア・コミュニケーションにかかわる諸問題を客観的かつ批判的にとらえて考察することができる力を養成する。 ・ゼミナールなどの専門演習科目を通じて、社会科学の方法論に則って考察し、論理的に結論を導き出す力を養成する。
問題発見・解決力	〔DP-4〕 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	〔CP-4〕 ・新聞学の理論や調査技法の学修を通して、現代社会の諸問題に対する分析視角を涵養する。 ・ジャーナリズム・メディア・コミュニケーションにかかわる事象を観察して問題を発見し、解決策を提案することができる力を養成する。
挑戦力	〔DP-5〕 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	〔CP-5〕 ・新聞学を系統的に学修することによって得られる知見と、演習科目など実体験を踏まえた主体的学修を通じて、あきらめない気持ちをもって積極的に課題に取り組むことができる人材を育成する。 ・新聞学の専門展開科目を通じて得られる多様な知識を、経験的社会における実践に照らし、率先してより良い社会の構築に寄与しようとする人材を育成する。
コミュニケーション力	〔DP-6〕 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	〔CP-6〕 ・少人数による初年次教育科目や、原則としてすべての学生が履修するゼミナールなど、様々なグループワークの機会を通じて、他者を尊重することができる力を養成する。 ・ジャーナリズムやメディアにかかわる現場など、実社会において適切なコミュニケーションを実践することができる人材を育成する。
リーダーシップ・協働力	〔DP-7〕 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	〔CP-7〕 ・ゼミナールなどの専門演習科目やグループワークの実践を通じて、率先してリーダーシップを発揮して、より良い成果をあげるよう尽力することができる人材を育成する。 ・ジャーナリズムやメディアにかかわる現場などの実社会において、自らすすんで協働することができる力を養成する。
省察力	〔DP-8〕 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。	〔CP-8〕 ・新聞学科の初年次教育科目を通じて、自ら行動すべきことを計画的に実践することができる力を養成する。 ・新聞学を系統的に学修する過程を通じて、自らの行動を振り返り、自己目標を実現しようと、たゆまずに努力することができる人材を育成する。

〔C P〕 カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針

〔D P〕 ディプロマ・ポリシー：卒業の認定に関する方針